

令和7年度南木曾町二十歳を祝う会 あいさつ (要旨)

若さと希望に満ち溢れる二十歳を迎えた若人の皆さん、心からお祝いとお喜びを申し上げます。また今日まで育てこられたご家族の皆様、恩師の先生方、地域の皆様にもこれまでのご労苦に対して敬意と感謝を申し上げるとともに、重ねてお祝いを申し上げます。

さて、我が国日本では人口減少社会に突入し、少子化・高齢化をはじめ様々な社会的な課題を抱えると同時に、世の中の様相、社会的環境も大きく様変わりしつつあります。また新型コロナウイルスの大流行も私たちの生活に計り知れない影響をもたらしました。とりわけ皆さん方は学生時代に不自由な面や我慢をする事も多く、苦勞した事と思います。しかしながら、社会がどんなに変わろうと、コロナが流行ろうと流行らまいと、世の中には全く変わらないものが幾つかあります。そのひとつは、何があろうと時間だけは過ぎていくということです。誰も時間を止めることは出来ません。

「光陰矢のごとし」という言葉がありますが、光陰というのは光と影、言い換えると光は日、影は月、つまり月日、時間のことです。矢のごとしとは文字通り弓矢が飛ぶように早いという事です。時間というのは矢のように早く過ぎる、時間はあっという間に過ぎていくというのが「光陰矢のごとし」の意味です。皆さんも今振り替えれば高校生活、その後の時間も間もあっという間に過ぎたと感じる人も多いのではないのでしょうか。不思議な事に年を取れば取る程時間の過ぎるのが早く感じるようになっていきます。なぜ年を取ると共に時間が過ぎるのが早くなるかというのをチョコちゃんでもやっていましたが、時間というものは、世界のどこでも、誰でも同じ速さで進む筈なのですが、なぜか年を取ると共に早くなっていく。その事はお父さんお母さんに聞いてみれば、お爺ちゃんお婆ちゃんなら尚更だと思います。

閑話休題、話は元に戻りますが、皆さんが何をしようとしまいと時間だけは過ぎていきます。皆さんの目の前にはまだ人生の時間はたっぷりとあろうかと思いますが、だからと言って「まだ大丈夫」「もう少ししたら」などと言っていると、時間だけがあっという間に過ぎて行って、何もできなかった、何も残らなかった、残ったのは悔いだけといった事になりかねません。

そうならないためには、今出来る事やるべき事を積み重ねていくほかありません。今出来る事を今やる、出来る事を毎日積み重ねていく。それはちょっとした事でも続けることで大きな力になり、皆さんの夢や思いに近づいて行く事にも繋がります。またやるべき事をやるという事は、成人としての回りからの期待に応えて行く事にもなります。今という時、一日一日をひたむきに過ごしながら、今出来る事今やるべき事をやることで、皆さんの人生が豊かなものとなると同時に、周りからの期待に応えられるような人となってくれる事を心か

ら期待しています。

地元の町長として、ひとつだけお願いをしておきます。それは皆さんの若い力を故郷に貸して欲しいということです。どんな方法でも構いません。故郷に住むこと、故郷で働くこと、故郷に戻ってくることに、或いは故郷に関わることに、故郷を思うことでも構いません。「ふるさと南木曽」は若い力を今本当に必要としています。これからも故郷と繋がっていて下さい。故郷に繋がっている限り故郷はいつでも皆さんを応援しています。皆さんもそんな故郷に何かしらの方法で力を寄せて頂ければとお願いをするものです。

そんなことも心の片隅に置きながら、二十歳になったのを契機に時間を大切に上手に使いながら、先ずは今出来る事をやって皆さんの夢・希望に近づいていく事、今やるべき事やって成人・社会人としての期待に応えられる人となってくれる事、更には今という時をひた向きに生き抜いていくことで、皆さんの人生が花開き実り多きものとならんことを心からお祈り申し上げ餞の言葉と致します。

人生はこれからが本番です。

「Time is money. 時は金なり」です。 がんばっていきましょう。

(令和7年8月14日 南木曽会館ホール)